



「社会福祉基礎」:外部講師の授業を行いました

テーマ「コミュニケーションの基礎」
 ～体験を通してコミュニケーションの本質や方法を理解する～

7月2日(木) 5・6限、3年生選択科目『社会福祉基礎』において、サンビレッジ国際医療福祉専門学校介護福祉学科教務主任の金井浩樹先生による授業を行いました。内容は『コミュニケーションの基礎』です。3年2組の科目選択者28名が出席しました。その様子を紹介します。5限目は講義を聴き、6限目は「命の授業」のDVD視聴後、講義を聴きました。



3年生28名が受講しました。



経験に基づく金井先生の話に引き付けられます。



「あなたはどう思う？」



真剣な表情で最後まで授業を聞いていました。

5 限目：講義

金井先生は、「福祉の仕事はコミュニケーション労働と言えます。それでは、コミュニケーション能力の高い人、話し上手な人とはどんな人でしょうか？」と生徒に質問されました。生徒からは、「よくしゃべる人」などという答えがありました。ここから、金井先生は、自らの体験を通したコミュニケーション論を展開します。

十数年前のこと、2週間の現場実習をしていた2人のサンビレッジ専門学校生に悩み事相談をした時の話をされました。実習中の悩みについて延々3時間以上聴き、アドバイスをしたのに、2人は、「先生は私たちの悩みを聴いてくれない」と泣き出して帰ってしまいました。その出来事を契機に、金井先生は有名な先生を訪れて、**カウンセリング**について学びました。

そんな冬休みの1月5日、一人学校で仕事をしていると、1人の学生がやってきて「家出をしました」と言うので、彼女の話聴いたそうです。1時間後、学生は「本当に素晴らしいアドバイスをありがとうございました」と言って帰っていきました。さて、どんな会話をしたのでしょうか。答えは、**①うなづく、②あいづち、③くり返す、④相手の話しをまとめる**という聴くスキルでした。相手の話にうなづく、あいづちをうったりしながら聴き、そして、相手の話をくり返したり、まとめたりしたそうです。

実際、金井先生自身が病気のお母さんを病院にお連れして診察と一緒に受けた時、患者の方を向いて話を聴いてくれた医師をとて信頼することができたけれども、パソコンばかり見て、症状を打ち込むだけの医師には信頼が全く持てなかったことを例として挙げられました。

先生が、家出をした学生に対して**カウンセリングの聴くスキル**を活用し、「相手の話のくり返し」をした時、学生は「どうして私の考えがわかったのか」と尋ねたそうです。「相手の話のまとめ」をした時、学生は混乱していた状況の中から原因を見つけて、自分が変わることが解決策だと気付いたそうです。この時、金井先生はアドバイスを何もしなかったのに、です。

ここで、金井先生は、「話し上手な人＝聴き上手な人」と板書しました。これは話を聴いてもらううちに、自分の話が整理され、解決法が見つかったという事例です。さらに、先生は「15分で悩みを解決します」というカウンセリングの先生を訪ねて東京まで行きます。この先生は、カウンセリングの中で、「モヤモヤする。スッキリしない」と金井先生が言うたびにその言葉を聞き流し、何度か同じ言葉が言われた後、「そうかスッキリしないのか」と初めてくり返したそうです。それ以降は、金井先生は自分が「モヤモヤする」と言わなくなりました。つまり、**③くり返す**のは「**気持ち・感情**」をくり返すことなのだ、とわかったそうです。

6 限目：「命の授業」のDVD視聴と講義

「命の授業」では、首から下を骨折した後、全身がマヒし懸命のリハビリによって職場復帰した中学校教師の腰塚先生の体験に基づく実話を視聴しました。視聴後、腰塚先生が復活した要因について考えました。

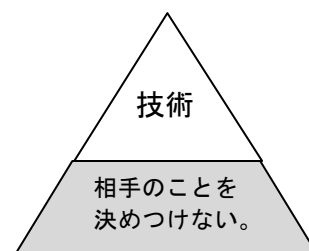
腰塚先生の病院のリハビリ担当者は新人の作業療法士でした。その作業療法士は、腰塚先生の気持ちを親身になって聴いてくれたそうです。そこで、腰塚先生は「**①人の話を聴くことは問題解決する力がある**」と考えました。それまで、「自信」は、人がしないことをしたら自信が生まれると思っていましたが、「自信」とは、「**自分のことを人に言う**」ときに自信が持てるとわかりました。そのためには、**話を聴いてくれる人が必要**なのだと考えました。

金井先生自身、大企業に入社し営業成績が同期入社800人中1番になった後で、心を病み、通院された経験があります。競争していくことに強いストレスを感じ退職した後、3～4年経って人に

自分のことを話せるようになって自信を取り戻したそうです。ここから得たことは、「②人の話を聴くことは勇気づける力がある」ということです。

しかし、ここに落とし穴があります。聴くスキルなどの技術だけが本当のコミュニケーション力ではありません。コミュニケーションは「相手のことを決めつけない、先入観を持たない」ことの上に成立します。

(右の図)



金井先生は8年前、不登校の高校3年生のカウンセリングを引き受けた時、その男子をカンボジアに連れて行きました。当時、アジアの最貧国の一つであったカンボジアのスラム街の子どもたちに会わせて、自分がいかに恵まれた環境にいるのか理解させるのが目的でした。孤児たちが共同生活している場所を訪れた時のことです。世話をしている人たちが自分たちにラーメンを作って出してくれました。その汁は近くの汚れた小川の水だと思われました。食べるのを躊躇し、集まってきた孤児が羨ましそうに見ているのを感じ、ラーメンを譲ろうと思った時、年上の孤児がお客さんに出すものだから食べてはいけないと、他の孤児たちを諭しました。また、日本人の観光客が落とした財布を拾って落とし主に返した子どもの姿も見ました。自分たちがかわいそうだと思い込んでいた孤児たちが、実は、精神的には非常に気高く、先入観で相手のことを決めつけてはいけないとわかりました。老人施設などでも、相手を決めつけてはいけない、決めつけられて物を言われるのはつらい、ということを感じてください。

授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

- ・ 4つの聴くスキルを学び、確かに自分が相談をしているとき、うなずいてくれたり相槌をしてくれたら、共感してくれているのだと内心ほっとする。だから私も、相談する時や相談される時は、しっかり「聴く」ということを意識したいと思った。
- ・ 私が「コミュニケーション」と聞いて最初に思い浮かんだ言葉は「言葉」や「笑顔」で、コミュニケーションは、人と関わる行為の一つなので難しいイメージがあった。しかし、話の聴き方や話し方一つで良い方向にも悪い方向にも進むことが分かり、そんなに難しいことではないのだと思えた。
- ・ 自信をもつには、「自分のことを人に言う」ことが大切であるという言葉がとても心に残った。言葉にして伝えることで自分の理想とする形が明確になるからだと思った。
- ・ 今回の2時間の授業は、とても印象深いお話ばかりだった。先生ご自身のお話の中で過去のお仕事で失敗されたご経験があるとのことだったが、今回のように聞き入ってしまうような授業をされる先生がいらっしゃるのには、コミュニケーションについてたくさんのご経験をされたからなのだろうと思った。だから、人生においてそれが失敗でも成功でも、まず経験するということがとても大事なことなのだろうと思った。

➤ まとめ

話し上手は聞き上手です。①うなずく、②あいづち、③くり返す、④相手の話しをまとめるの聴く技術+相手のことを決めつけないことが必要です。聴くことは難しく、意識しないと聴くことはできません。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～